

かなえ

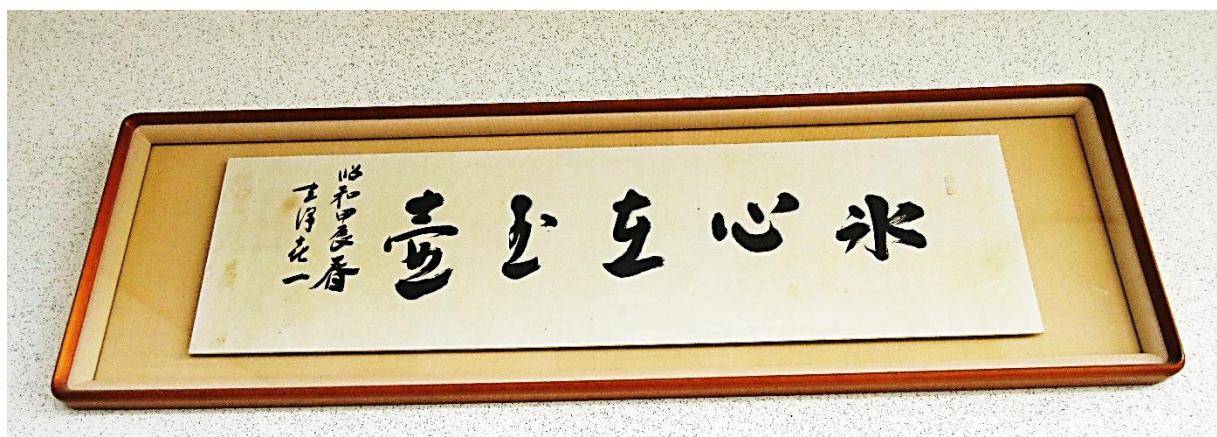
福山市立金江小学校
2024 年(令和 6 年)
6 月 1 号

- + 助け合う
- 引き受ける
- × 声をかけ合う
- ÷ 分かち合う

宮澤喜一氏揮毫（きごう）の書

5 月 25 日（土）に宮澤喜一記念館が松永町のはきもの博物館内にオープンしました。宮澤喜一氏は金江町にゆかりのある政治家で、1991 年（平成 3 年）～1993 年（平成 5 年）には内閣総理大臣を務めています。また政治家としての貢献・業績が認められて、広島県名誉県民、福山市名誉市民にも選ばれています。

本校には宮澤喜一氏揮毫の書が二点掲げられています。一つは北棟玄関にある「氷心在玉壺」です。「ひょうしん ぎょっこにあり」と読みます。「ひとかけらの氷が美しい宝石ででき



たつばの中に浮いているような、そのような美しく清い心」という意味です。「氷心在玉壺」は、漢詩に出てくる言葉でおおよそ 1200 年前の唐の時代に王昌齡（おうしょうれい）が作った詩の一節です。親友に王昌齡が自分は「澄みきった心」「純粋な心」のまま変わらないという意味で送った言葉です。

この書の最後には「昭和甲辰春」と宮澤氏が書いた時期が記されています。これは「きのえ たつの年の春」という暦（こよみ）の言い方で六十年に一度めぐってきます。偶然ですが、今年 2024 年（令和 6 年）は甲辰（きのえ たつ）の年です。このことから、この書は六十年前、すなわち 1964 年（昭和 39 年）に書かれた書だとわかります。

もう一つは体育館にある「任重道遠」です。「任重く道遠し」と読みます。礼儀や人の在り方について孔子（こうし）の言葉を弟子がまとめた書物「論語」に出てくる言葉です。論語はおおよそ 2500 年前の中国で成立した書物です。「任重く道遠し」は、「人の生きる道について、よりよいあり方を追い求め、自分のつとめを果たしていくことは、容易ではなく、はるかに遠いものである」という意味です。人は命が尽きるまで、人としての理想や真理を追い求めて努力していかなくてはならないという教訓を含む言葉として用いられます。



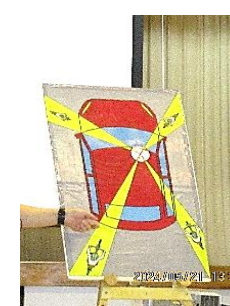
金江小学校で学ぶ子ども達に対する宮澤喜一氏の思いが、これらの書から伝わってくるようです。「偽りのない友情こそが尊い」「学ぶこと、道を究めることに終わりはない。絶えざる努力が大切である」ということを、これらの書の前に立つ時に思いうかべたいと思います。

交通安全教室

1 年生と 3 年生を対象に、安全な歩行や自転車の乗り方を学ぶ交通安全教室を開催しました。道路を横断する際は左右をよく確認すること、自転車に乗る時はヘルメットをかぶること、自動車には歩行者が見えない死角あることなど、実際の生活で身につけたい動作も含めて市役所の指導員さんから教わりました。

ヘルメットの着用については、保護者の皆さんが家庭で話してくださっていることが子ども達の発言から伝わってきました。ありがとうございます。また地域の見守りボランティアの方から、通学、下校の際に声をかけていただいたこともわかりました。ありがとうございます。

継続して交通安全については指導していく必要があります。引き続きご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。



お知らせ



・スクールカウンセラー来校日は、6 月 26 日（水）13：50～、7 月 10 日（水）10：20～です。相談希望がある場合は、担任にお知らせください。